

3号機原子炉隔離時冷却系ポンプ駆動用タービン軸受け部からの油漏れ点検結果について

3号機は原子炉起動中ですが、平成17年3月12日、原子炉隔離時冷却系ポンプ^{*1}の起動時の機能確認を実施したところ、ポンプ駆動用タービンの軸受け部から潤滑油の滴下（1滴/80秒）があることを、当社社員が発見いたしました。

その後、当該軸受け部の油面調整を行ったのち、再度当該ポンプを起動し漏えい確認を実施しましたが、状態が改善されないことから、起動操作を中断し、潤滑油系の点検を行うこととしました。

滴下した油は、当該軸受け部の下に設置されている油受けから廃油槽に導かれ処理されております。（平成17年3月13日お知らせ済み）

潤滑油系の点検の結果、今定期検査において当該タービンの分解点検を行った際、潤滑油配管に設置されている4個のオリフィス^{*2}のうち、穴の径が違う2個を取り違えて設置していたため、当該軸受け部に通常より多い潤滑油が供給され、漏えいしたことが分かりました。

オリフィスを取り違えて設置した原因は、オリフィスの取り付け位置の管理を、番号付けされた部品収納袋の番号と照合することで管理しておりましたが、収納するオリフィス自体に番号が表示されておらず、また取り付け位置が近接していたことから、取り付けの際に間違えたものと推定いたしました。また、オリフィス取り付け直前に取り付け位置確認のため行っている穴の径の確認をしなかったため、取り違えていたことに気が付きませんでした。

対策として、今後の管理は、オリフィスに番号を刻印し、番号で取り付け位置を管理することとし、その旨要領書を変更いたします。また、協力企業に今回の事例を周知することにより再発防止に努めてまいります。

なお、潤滑油系の点検が終了したことから、起動操作を再開しております。今後、健全性の確認を行います。

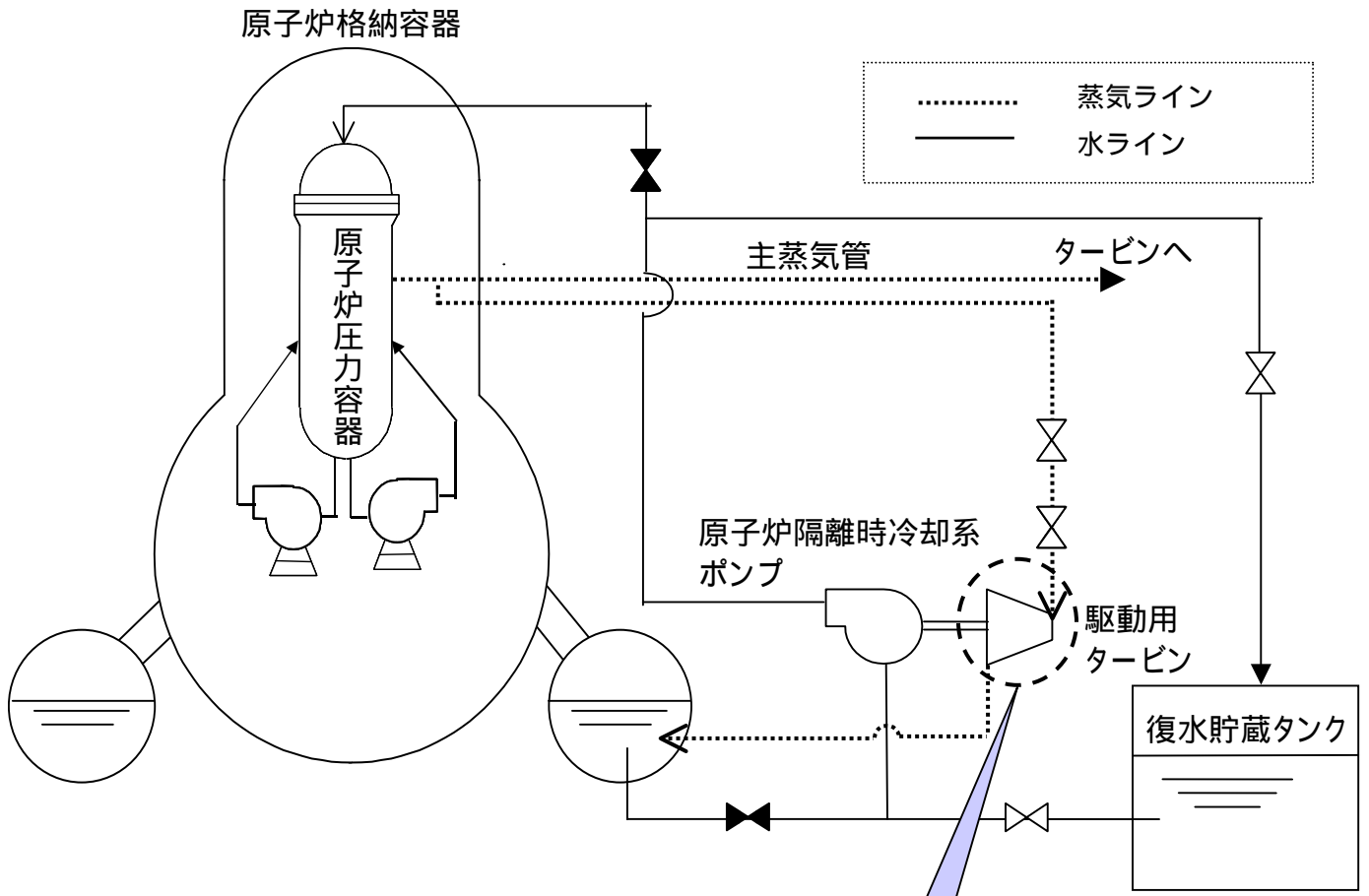
以上

*1 原子炉隔離時冷却系ポンプ

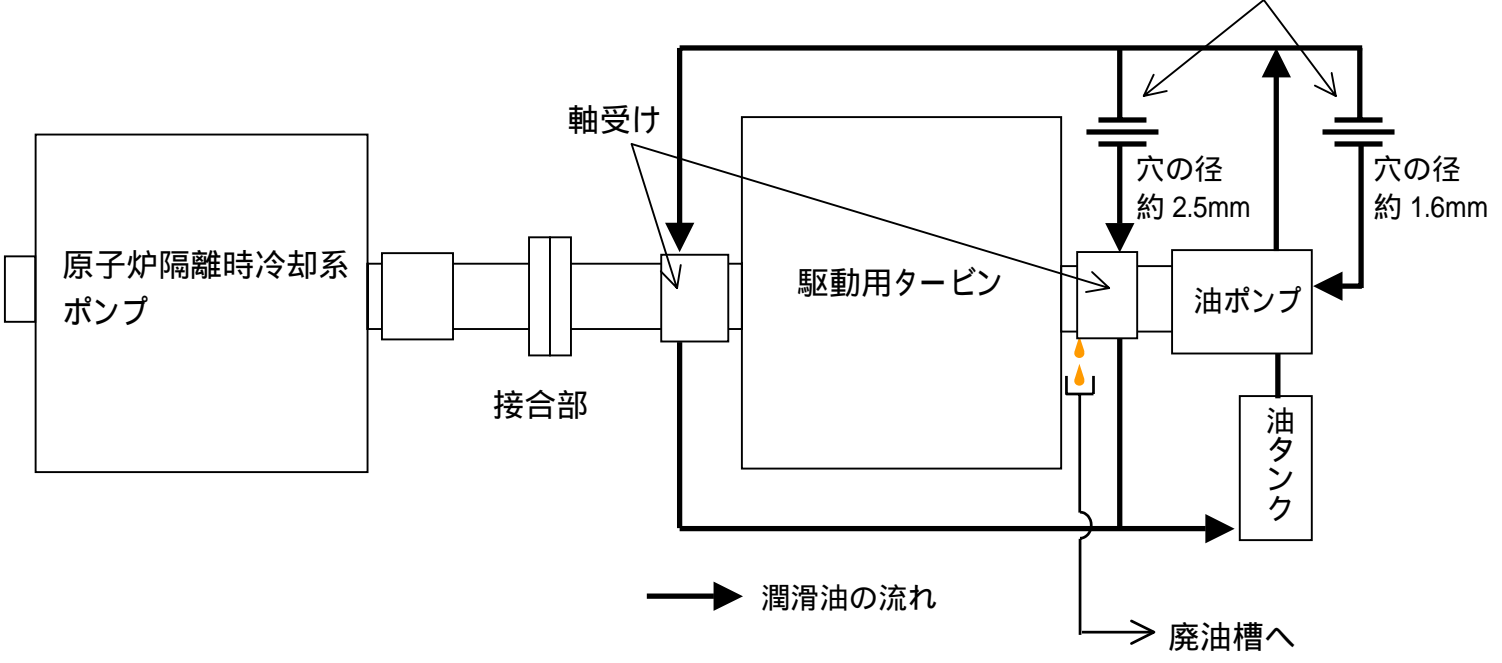
何らかの原因により、通常の原子炉給水系が使用不可となり、原子炉水位が低下した場合等において、原子炉の蒸気を駆動源にしてポンプを回し、原子炉の水位確保および炉心の冷却を行う系統のポンプ。なお、本系統は非常用炉心冷却系ではありません。

*2 オリフィス

流量を制御するために、配管の途中に設けた絞り穴。



下記のようにオリフィスが
取り違えて設置されていた



3号機原子炉隔離時冷却系ポンプ
駆動用タービン軸受け部からの油漏えいの概要